第３章　防災啓発・教育活動

1. 平成28年度　あいぼう会活動報告

あいぼう会事務局　石黒聡士

1. 活動内容と年間スケジュール

平成28年度は、これまでの目的である「企業の災害に対する被害の軽減、復旧の迅速化」を継続し、月１回（原則毎月第４月曜)、愛知工業大学本山キャンパスにおいて開催した。防災セミナーと講演会・講習会・勉強会、防災サロン・ワークショップ、見学会を柱として積極的に活動し、災害に関する知識の修得、会員相互の交流、切磋琢磨をはかった。運営委員会および運営協議会を開催し、会の運営を審議しながら活動した。活動スケジュールを表１に示す。

表１　平成28年度あいぼう会の活動スケジュール

日期	例会	運営委員会	防災セミナー・防災サロン	WS	講演会 講習会 勉強会	総会 運営協議会	見学会	懇親会 忘年会
４月18日	○				○	○		○
５月16日		○	○	○				
６月20日		○	第１回熊本地震報告会	○				
７月11日		○	○	○				
８月８日		○	第２回熊本地震報告会					
９月12日		○	○	○				
10月17日				中間報告会	○			
11月21日		○	○	○				
12月19日	10周年記念会				○			○
１月16日							○	
２月20日			○	○		○		
３月13日		○	○	○				
合計回数	1	7	8	8	3	2	1	2

2. 例会

平成28年４月18日㈪　14：00～17：00

➢ **第１部：講演会**

第１部では、あいぼう会会長（愛知工業大学 横田崇 教授）挨拶に続いて、名古屋大学名誉教授・愛知工業大学客員教授の辻本哲郎氏により「中部の水災害とその対応－治水から克災まで」の講演が行われた。

➢ **第２部：平成28年度総会**

第２部では、平成27年度活動および会計報告と平成28年度運営体制・活動方針および予算案、平成28年度防災サロン・ワークショップについて説明が行われた。防災サロン・ワークショップの説明では、防災サロン：倉橋奨、第５WS：落合鋭充班長が「防災力検定（検定)」、第６WS：内藤克己班長が「あいぼうWS（あいぼう)」について説明した。最後に、早川澄男運営副委員長より閉会の辞が述べられて、総会は終了した。

3. 講演会・勉強会・講習会

➢ **平成28年度講演会（通算第６回）**：平成28年４月18日㈪　14：10～15：40

講　師：辻本哲郎 氏（名古屋大学名誉教授・愛知工業大学客員教授）

テーマ：中部の水災害とその対応－治水から克災まで

➢ **平成28年度講習会（通算第９回）**：平成28年10月17日㈪　13：30～15：30

講　師：豊田市消防本部 中消防署消防２課

テーマ：火災避難訓練

写真１　平成28年度講演会ポスター

写真２　第６回講演会の様子

写真３　第９回講習会の様子

4. 見学会

➢ **平成28年度第１回（通算第20回）**：平成29年１月16日㈪　10：00～13：00

陸上自衛隊名古屋市守山駐屯地を訪問し、陸上自衛隊の概要説明を聞き、資料館などを見学した。

写真４　第20回見学会

写真５　第20回見学会の様子

5. 防災セミナー・防災サロン

今年度よりスケジュールを見直し、WS→防災セミナー→防災サロン　というスケジュールにすることにより防災サロンにすべての方が参加可能となった。今年度防災セミナーは、防災に関わる各分野の専門家に依頼して、地震災害の発生後に発生が予想される各種の問題とそれへの備えについてのセミナーを開催した。防災サロンは、セミナーの講師を交えて座談会を開催（今年度より全員参加の形式に変更した）。

平成28年度第１回（通算第34回）：平成28年５月16日
講　師：赤堀良介 氏（愛知工業大学　土木工学科　准教授）
テーマ：河川管理に関する近年の話題について

平成28年度第２回（通算第35回）：平成28年７月11日
講　師：岡崎一浩 氏（愛知工業大学　経営学部経営学科　教授）
テーマ：防災にかかる企業経済財務のあり方

平成28年度第３回（通算第36回）：平成28年９月12日
講　師：飛田潤 氏（名古屋大学災害対策室　教授）
テーマ：熊本地震の建物被害をどう解釈するか

平成28年度第４回（通算第37回）：平成28年11月21日
講　師：川崎浩司 氏（大阪大学客員教授・名城大学特任教授）
テーマ：その時どうする！巨大地震・津波への対応

平成28年度第５回（通算第38回）：平成29年２月20日
講　師：松尾繁展 氏（愛知県環境部資源循環推進課　主任主査）
テーマ：愛知県災害廃棄物処理計画について

平成28年度第６回（通算第39回）：平成29年３月13日
講　師：伊豆原浩二 氏（愛知工業大学　工学部土木工学科　客員教授）
テーマ：地震災害時の交通について―阪神・淡路大震災と東日本大震災から学ぶ―

6. 報告会

４月14日午後９時26分の、いわゆる「前震」から始まった一連の熊本地震について、地震直後から現地調査を実施した研究者や企業の支援活動について報告会を行った。

第１回熊本地震報告会：平成28年６月20日
講　師：倉橋奨 氏（愛知工業大学　土木工学科　講師）
　　　　石黒聡士 氏（愛知工業大学　地域防災研究センター　PD研究員）
　　　　正木和明 氏（愛知工業大学　客員教授）
　　　　呉浩 氏（愛知工業大学地域防災研究センター　PD研究員）

第２回熊本地震報告会：平成28年８月８日
講　師：山田貴文 氏（愛知県防災局）
　　　　大西喜隆 氏（大府市役所）
　　　　田中宏昌 氏（中部電力株式）
　　　　河津博史 氏（東邦ガス株式会社）
　　　　國澤和義 氏（株式会社ファルコン）

7. ワークショップ

第５WSは「企画・成果展開」をテーマに、構築した防災力検定のシステムを実際使用して会員企業の防災力向上に資するか検証を行った。第６WSは「あいぼう」をテーマに、過去９年間のあいぼう会の成果を整理し現状を把握、真のあいぼう構築に向けた課題整理を行った。

平成28年度第１回（通算第60回）：平成28年５月16日
平成28年度第２回（通算第61回）：平成28年６月20日
平成28年度第３回（通算第62回）：平成28年７月11日
平成28年度第４回（通算第63回）：平成28年９月12日
平成28年度第５回（通算第64回）：平成28年10月17日（中間発表会）
平成28年度第６回（通算第65回）：平成28年11月21日
平成28年度第７回（通算第66回）：平成29年２月20日（最終報告会）
平成28年度第８回（通算第67回）：平成29年３月13日

8. 運営委員会

これまで通り、月に１回のペースで運営委員会を開催した。

平成28年度第１回（通算第84回）：平成28年５月16日
平成28年度第２回（通算第85回）：平成28年６月20日
平成28年度第３回（通算第86回）：平成28年７月11日
平成28年度第４回（通算第87回）：平成28年８月８日
平成28年度第５回（通算第88回）：平成28年９月12日
平成28年度第６回（通算第90回）：平成28年11月21日
平成28年度第７回（通算第91回）：平成29年３月13日

9. 運営協議会

平成28年度運営協議会（通算第７回）：平成29年２月20日

運営協議会にて、平成28年度活動報告および平成29年度活動方針の発表を行った。また、活動に関する外部評価を、次の方々（ご所属のみ、50音順）に実施していただいた。

【専門委員ご所属】
一般社団法人 中部経済連合会、東邦ガス株式会社、名古屋商工会議所

【アドバイザーご所属】
愛知県庁、大府市役所、幸田町役場、豊田市役所

10. あいぼう会10周年記念会

あいぼう会は平成28年12月11日をもって設立10周年を迎えた。講演会47名、懇親会42名の方にご参加いただき盛況のうちに終えることができた。

日時：平成28年12月19日㈪　13：00～16：00 講演・報告（２階翼の間）
16：00～18：00 懇親会（２階桜の間）
場所：ホテル名古屋ガーデンパレス（名古屋市中区錦３丁目11-13）

プログラム
開会の挨拶：横田崇（あいぼう会会長・愛知工業大学地域防災研究センター長）
来賓祝辞：丹羽邦彦 様（愛知県防災局次長）
「あいぼう会10年間の歩み」：正木和明（あいぼう会顧問・地域防災研究センター客員教授）
講演
「見たくないものも見て連携して震災対策を！」：福和伸夫 氏（名古屋大学減災連携研究センター教授）
「国による防災対策のこれまでの取り組み」：廣瀬昌由 氏（内閣府政策統括官（防災担当）参事官）
あいぼう会 各会員の取組み紹介：あいぼう会各会員
閉会の挨拶：河津博史（あいぼう会専門委員・東邦ガス株式会社）

懇親会
開会の挨拶：内藤克己（あいぼう会運営委員長・愛知工業大学非常勤講師）
来賓祝辞：後藤泰之 様（学校法人名古屋電気学園理事長・愛知工業大学学長）
乾杯：早川澄男（あいぼう会副運営委員長・あいち防災リーダー会）
歓談
閉会の挨拶：石井計義（あいぼう会副運営委員長・福祉救援ボランティア「こだま」）
記念撮影

写真６　10周年記念会　集合写真

10. 平成28年防災功労者内閣府総理大臣表彰　受賞

昨年度３月に第20回防災まちづくり大賞 消防庁長官賞を受賞したことを受け、平成28年防災功労者内閣府総理大臣表彰を受賞した。同賞の表彰式は2016年９月18日、総理大臣官邸（大ホール）で開催され、横田会長と内藤運営事務局長が出席した。

写真７　平成28年防災功労者内閣府総理大臣表彰式

表彰状

企業防災ネットワーク
「[illegible]まちづくり地域の会」
あいぼう会 殿

貴会は多様な業種、分野の企業や団体などの防災ネットワーク組織による防災人材の育成など防災思想の普及及び地域防災力の向上に貢献した功績は誠に顕著であります
よってこれを表彰します

平成二十八年九月一日

内閣総理大臣 安倍晋三

写真８　表彰状

写真９　賞牌

2. 平成28年度社会人防災マイスター養成講座

講座責任者　横田崇

1. 講座概要

中部圏は日本のものづくりの中核地域であると同時に、東南海地震などの大地震が警戒されている地域でもある。社会人防災マイスター養成講座は、企業の防災担当者を主な対象に、非常時にリーダーとして活躍できる人材を養成して、企業や地域が不幸にして被災した場合でも速やかに活動を再開できるようにすることを目的としている。

愛知工業大学を中心として、連携校である名古屋工業大学、大同大学、豊田工業高等専門学校の教員が参加して平成21年10月に開講した。

2. 28年度カリキュラム

本講座は１年間の課程として、半期３科目（年間６科目）を受講することとしている。各科目は90分授業を15回行うため、年間で135時間の授業を開講することになる。学校教育法に基づき120時間以上の授業を受講した履修生に文科省より「履修証明書」が交付される。

対象者を社会人としているため、授業はｅラーニングを中心として便宜を図るようにしているが、マイスターとして指導力を発揮するための問題解決能力、コミュニケーション能力を育成するため、各履修生は個人・グループの研究発表を最終授業で行うこととしている。また、授業のレベルは概ね学部上級生から大学院修士課程程度を目安としている。

平成28年度入学者に対する講義科目と担当教員を表１に示す。現在までの新入生数を表３に示す。

表１　科目と担当教員

開講期	授業科目	担当教員
秋季	防災学概論	正木
	建築防災論	岡田、内藤（総合資格）
	防災リテラシー	倉橋、落合（㈱ファルコン）
春季	企業防災論	建部、渡辺（名工大）
	地域防災論	小池、鷲見（大同大）、早川（あいち防災リーダー会）
	防災フィールドワーク	今井（Gフレクション）
全期	特別研究	正木（コーディネーター）他全教員

3. 27年度秋季履修生

履修生には正規の６科目履修の他に、特別研究が課せられている。特別研究は大学における卒業研究に対応している。平成27年10月入学の秋季履修生は１年間の特別研究の成果を、平成28年７月に、先生方、履修生の前で発表した。過去の履修生も聴講に駆けつけてくれた。発表の後は修了生を囲んで懇親会が持たれた。修了生のネットワークの良さが示された。

表２　27年度秋入学履修生の特別研究テーマ

No	学籍番号	名前	特別研究テーマ
1	G15552	大村　　卓	愛知県での原発事故対策　福島の原発事故から考える
2	G15553	岡田　公夫	木造住宅耐震改修促進につなげる活動
3	G15554	加藤　信夫	小学校での防災授業の実施とみんなで楽しくマップづくり！
4	G15555	川口　宗泰	Let's 防災教育～環境防災コースって必要なの？～ 防災チャレンジプランへの挑戦を通じて
5	G15556	星野　正彦	自社のビジネス・コンティニュー・プランの作成
6	G15557	宮崎　浩司	地域支援における企業と行政の連携
7	G15558	渡辺　弘行	地域防災力を高めるために ～気象リスクと都市災害の観点から～

4. 28年度秋季入学生

平成28年10月４日に開講式を自由ヶ丘キャンパスで開催した。受講生は建設業、製造業をはじめ、８名である。平成29年３月で半期が終了し、平成29年７月に卒業予定である。

表３　累計履修生数

入学年季	21年秋	22年春	22年秋	23年秋	24年秋	25年秋	26年秋	27年秋	28年秋
履修生数	10	10	9	10	9	9	8	7	8

写真１　27年度優秀賞の渡辺さん

写真２　27年度修了式

3. 学校防災シンポジウム2017
大洪水に対する小学校の備えとは

小池則満

学校防災についての様々な活動について発表・紹介し、今後のあり方について考えることを目的としたシンポジウムを開催した。愛知工業大学の主催、豊田市立元城小学校、岐阜聖徳学園大学による協力、そして公益財団法人河川財団の助成を受けて実施した。

開催日時：
2017年２月18日㈯　14：00～16：30（開場 13：30）
場所：愛知工業大学 八草キャンパス　１号館３階301教室
◆プログラム
　主催者挨拶
　　横田崇（愛知工業大学 教授　地域防災研究センター センター長）
　【第一部 基調講演】
　「学校のなすべき減災活動を求めて」
　　深津幸春（愛知県豊田市立元城小学校 校長）
　【第二部 話題提供】
　「学校防災活動におけるGPS利用」
　　森田匡俊（岐阜聖徳学園大学教育学部 専任講師）
　「雨・川の災害と地域を知り，考えよう」
　　鷲見哲也（大同大学工学部 准教授）
　【第三部 パネルディスカッション】
　　コーディネーター 小池則満（愛知工業大学工学部 教授）
　　パネリスト 講演登壇者３名
　閉会の挨拶
　　柏木良明（岐阜聖徳学園大学 副学長）
参加人数：約100名
概要：　防災に関係する業務に携わる方、防災ボランティア、学校の教職員、学生等、多くの皆さんにご来場いただけた。また、元城小学校の児童２名にも活動紹介をしていただいた。図１に示すとおり、参加者の皆様から概ね好評をいただけた。今回テーマにした小学校における水害対策、特に高台避難やタイムラインについてのご意見もアンケートでうかがった。その結果、ほとんどの方からその必要性については認識いただけたが、実行可能性については図２、図３に示すとおり疑問の声もあった。ここでいただいたご意見を参考に、今後も学校防災に関わる皆さんとの実践研究を続けていきたいと考える。

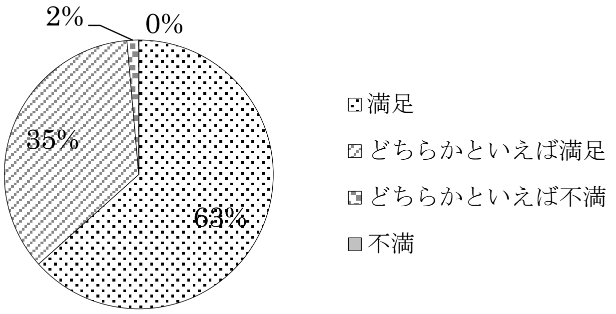

図１　シンポジウムの内容についてのアンケート結果

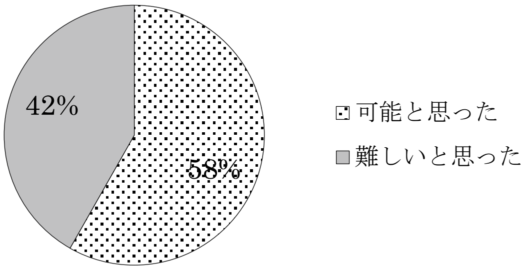

図２　洪水に対する小学校の高台避難について実行可能生についての回答結果

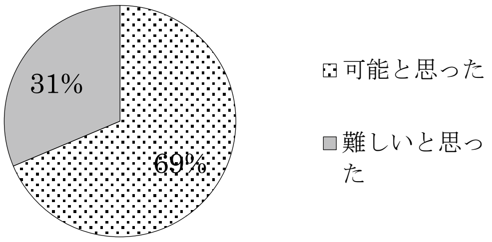

図３　洪水に対する小学校のタイムラインについて実行可能生についての回答結果

写真１　会場の様子

当日、ご登壇いただいた皆さん、参加いただいた皆さんに心より御礼申し上げる。

4. 緊急地震速報を活用した「第11回防災訓練」の実施

センター長　横田崇

本学は全国の大学に先駆けて緊急地震速報を活用した防災訓練を実施している。訓練は年に一度、秋季に実施されている。当初は大学のみの参加であったが、その後、学園全体へと拡大した。平成28年度は11回目となり、以下の要領で実施された。

想定地震：東海・東南海連動地震（M8.5、震央距離140㎞）

猶予時間：40秒

予想震度：６弱

緊急放送：緊急地震速報を受信すると自動的に放送設備が起動し、サイレンが２度鳴り、続いて「地震が来ます」の放送が繰り返される。

退避行動：学生は机の下に身を隠す、実験機械から退避する等の行動をとる（あいちシェイクアウト訓練に参加）

避難行動：センター長がマイクで「揺れが収まりました」と放送し、避難広場（サッカー場）へ避難が開始される。

○参加者：

大学	学生	3,260名、	教職員　43名（避難広場のみ）、学外者52名
専門学校	学生	180名、	教職員　20名
高校	生徒	1,545名、	教職員　130名
中学	生徒	502名、	教職員　20名

写真１　救護所設置

写真２　避難場所での安否確認

5. あいちシェイクアウト訓練

石黒聡士・岩見麻子・落合鋭充・倉橋奨・横田崇

1. 概要

あいちシェイクアウト訓練は愛知県防災会議が提唱し、愛知県が主催する防災訓練である。平成28年の訓練の内容は、地震発生時に各自が直ちに身の安全を確保する安全行動として、「１．しせいをひくく、２．あたまをまもり、３．じっとする」を、１分間実施することである。平成28年９月１日の正午の時報を開始の合図とし、愛知県下において一斉に訓練が実施された。この訓練には、参加者募集期間（５月16日から８月31日）の３ヶ月半に、47万人以上がウェブサイト等を通じて参加表明（登録）を行った。参加表明者数は平成27年度から約12万３千人の増加であった。

当センターは、愛知県からの依頼により、愛知工業大学、あいぼう会、㈱エーアイシステムサービス、㈱ファルコン、シェイクアウト提唱会議とともに「あいちシェイクアウト訓練実行委員会」の一員として、訓練の実施に協力した。昨年度に引き続き、ウェブサイトの作成と運営、ポスター・リーフレットの作成について協力した。以下、愛知県とともに行った平成28年度の取り組みについて報告する。

2. 実施スケジュールおよび参加者の内訳

訓練の実施発表は５月16日に愛知県知事により報道発表され、同時に参加登録が開始された。参加登録期間は訓練前日の８月31日までの３ヶ月半であり、開始時期は平成27年度（６月29日）よりも１ヶ月以上早い開始となった。この間に、472,073名がウェブページ等を介して参加を表明した。原則として９月１日の正午を訓練開始の合図とし、各自がその場で１分間、身の安全を図る体勢をとった。

参加を表明した団体の中でも、県内の271の小・中学校および高等学校が参加を表明し、参加人数は約13万５千人以上に及ぶ。これは平成27年度実施の訓練と比較して校数で118％、人数でも115％の増加である。このほかに参加者数の増加が顕著な参加者のカテゴリーとして、NPO・自主防災組織等は参加者数が平成27年度の1,881名から3,736名へ増加した（平成27年度比198％）。

3. 参加者の感想

平成28年度の訓練においても、前年度と同様に参加者の感想を募集した。これは「ふりかえりシート」と呼ばれる、訓練実施時の写真を添付し、感想を記入する形式であり、14件の応募があった。これらの応募作品はあいちシェイクアウトホームページに掲載されている。

4. 訓練実施に関する新聞報道

各地で実施された訓練の様子は、新聞各社により写真付きで報道された。各社の見出しは次の通り。

・「防災訓練　どこでも／各地でシェイクアウト／集まらず職場・自宅で」朝日新聞９月２日朝刊

・「防災の日　備え確認／緊急物資・情報収集・火災発生…」朝日新聞９月２日朝刊

・「シェイクアウト訓練／県内各所47万2073人参加」９月２日中日新聞朝刊

・「悲劇繰り返したくない／防災の日　中部も訓練」９月２日中日新聞朝刊

5. 今後の課題

今年度の「あいちシェイクアウト訓練」は、本訓練が開始されて以降最高の47万人を超える参加があった。参加者数は年々増加傾向にあり、シェイクアウト訓練の認知度が高まっていることを示している。こうした活動が広がりを見せていることは、住民の防災意識の底上げにつながると考えられることから、地域防災力の向上のために重要な活動と言える。今後はこのような活動を継続的に安定して運営する体制の確保と、さらなる参加者数の増加を目指す必要がある。

6. オープンカレッジ「地域防災研究センター講座」の開催

正木和明

AIT愛知工業大学オープンカレッジは名古屋電気学園内の４つのキャンパスにおいて毎年開催されている市民向け講座である。春季、秋季の半期ごとにそれぞれ46講座（年間92講座）が開講されている。各講座は、月～土曜日の午前、午後に、１科目、３回～10回講義が行われている。地域防災研究センターは「地域防災研究センター講座」として春季、秋季とも３回ずつ開講し、センター教員が講義を担当している。オープンカレッジ講座は有料であるが、本講座は社会的貢献事業としての性格が強いことから受講料無料として募集されている。講座受講者数は教室の収容人数の制限から定員60名としているが、実際の受講者は50名～60名であり、盛況を呈している。受講者の多くは50歳～70歳代であり、夫婦での参加も多い。

図１に2016年度秋季の募集チラシを示す。特別講座の右隣りに「地域防災研究センター講座」の案内が紹介されている。2016年度の春季は本山キャンパス、秋季は八草キャンパスで開催された。以下に講座テーマと担当教員を示す。

【春季講座】

テーマ「私の出会った魅力的な地震学」

最近地球や自然について学びたいとのご希望が多くなりました。そこで、災害から離れ自然を友とするお話をさせていただく事にしました。自然を理解するために３つの学問を紹介しながら自然を語ってみたいと思います。

第１回　2016年５月14日㈯　10時30分～12時
正木和明　客員教授：自然を理解する手段～物理学～

第２回　2016年５月25日㈯　10時30分～12時
正木和明　客員教授：地球を理解する手段～地球科学～

第３回　2016年６月18日㈯　10時30分～12時
正木和明　客員教授：世界の地形を理解する手段～プレートテクトニクス～

【秋季講座】

テーマ「熊本地震を解剖する」

熊本地震はなぜ起きたのか？どのようなメカニズムなのか？火山との関係は？といった疑問に３人の専門家が分かりやすくお答えします。

第１回　2016年10月15日㈯　10時30分～12時
石黒聡士　ポスドク研究員：地表に現れた割れ目が語る活断層の姿

第２回　2016年11月19日㈯　10時30分～12時
正木和明　客員教授：二つの地震が連動した不思議な地震

第３回　2016年12月17日㈯　10時30分～12時
横田崇　センター長・教授：阿蘇火山と熊本地震の関係

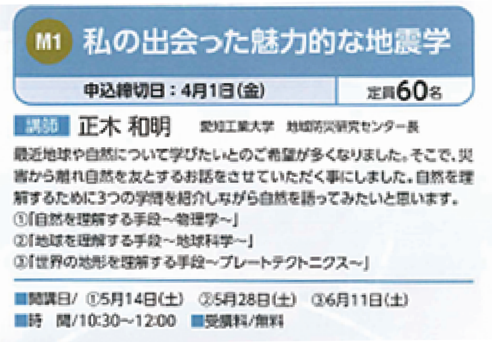

図１　2016（平成28）年度　工業大学オープンカレッジ（左）秋季、（右）春季募集チラシ

7. 瀬戸消防出初式への出展

奥川雅之・石黒聡士

１．日時

平成29年１月８日（日）　午前９時から正午まで

２．場所

瀬戸市栄町45番地　パルティせと３階　学びゾーン

３．概要

愛知工業大学地域防災研究センター防災啓発ブースにて、レスキュークローラーによるレスキューロボットの操縦体験の実施

ドローンによる撮影、ブースにて災害時のドローンの活用及び能力の解説

４．目的

操縦体験を通じて、レスキューロボットの災害現場での必要性などを知ってもらう。

５．実施した内容

火山噴火後の災害現場を模したジオラマで、怪我をした要救助者を模した人形を、レスキュークローラーを操縦して救助、搬送を行う操縦体験を行った。

レスキューロボット研究会のサークルメンバー６人で子どもたちにロボットの操縦方法や、レスキューロボットとはどんなものがあるのかなど展示を交え説明を行った。

イベント終了の正午すぎまで行い、35人の子どもたちに操縦体験をしてもらえた。

写真１　操縦体験ブース

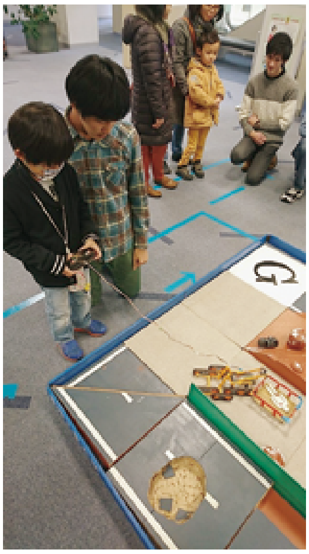

写真２　ロボットでの救助の様子

開会式において建物外壁を消防隊員が降下するデモンストレーションの様子と、会場周辺における分列行進、車両展示パレード、一斉放水の様子等を、ドローンを用いて撮影した。

第２部の会場内において液晶ディスプレイで直前に撮影した映像を放映した。見学者に対し、災害時におけるドローンの活用及び能力について解説し、市長をはじめ多くの見学者にドローンが持つポテンシャルの高さを認識してもらえた。

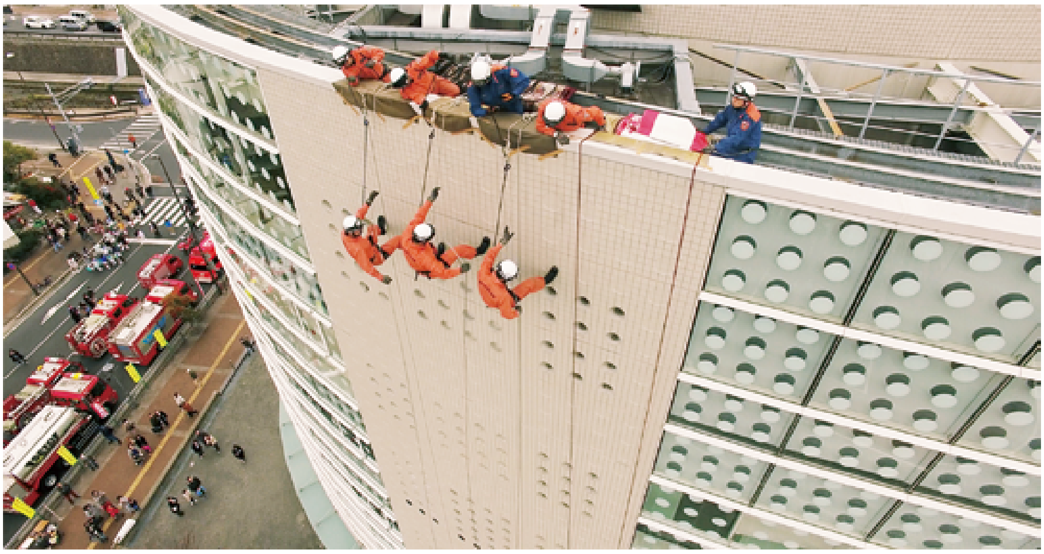

写真３　ドローンからの撮影画像

写真４　ドローンの飛行の様子

写真５　映像の展示と市長（右から３番目）への説明

8. とよた安全安心フェスタに参加・出展

小池則満・奥川雅之・石黒聡士・岩見麻子・落合鋭充
小穴久仁・倉橋奨・正木和明

豊田市と愛知工業大学の包括連携協定に基づき､｢とよた交通安全・防災フェスタ」に地域防災研究センター、エーアイシステムサービス、NPO法人DoChubuと共同で出展した。なお、岩見研究員と石黒研究員が実行委員会に加わり、実施内容等について年間を通じて討議に参加した。

開催日時：2016年５月15日㈰　９：30－16：30
場　　所：スカイホール豊田（豊田市総合体育館）
展示内容：知能機械システム工学研究室（機械学科 奥川雅之准教授）
　レスキューロボットの展示と操縦体験コーナー
計画研究室（土木工学科 小池則満教授）
　防災マップの展示、防災クイズコーナー
地域防災研究センター（石黒聡士研究員）
　ドローン体験コーナー
参加人数：500名以上（防災クイズコーナーにて愛工大断層せんべい配布、15時の時点で500枚を配布終了）
概　　要：非常に多くの方、特に親子連れの皆さんに足をとめていただき、防災に関するクイズや被害想定、レスキューロボットのデモンストレーションなどをご覧いただけた。前日の機材搬入、展示ブースの運用、展示会終了後の片付けと大学までの輸送・片付け等、そして当日の説明にはそれぞれの研究室の学生も参加した。

ブースの概要（左：レスキューロボット操縦体験　右：防災クイズ）

9. 豊田消防本部との連携

正木和明

1. 豊田市との包括的連携協定

本学は豊田市西北の八草地区に大学本部を設置していることから、豊田市との関係が深く、豊田市との間に「包括的連携協定」を結んだ。この協定に基づき、本センターは豊田市役所防災関係部署および豊田消防本部と連携して防災に関する研究プロジェクトを推進してきた。

（１）防災カルテの作成（災害対策課、消防本部・消防団）

（２）豊田市防災会議、防災基本条例委員会へのセンター教員の参画（災害対策室）

（３）豊田市役所避難訓練への支援（災害対策課）

（４）防災フェスタへの出展（災害対策課、消防本部）

（５）災害対応型ロボットの開発（消防本部）

2. 豊田市消防本部との共同企画

平成28年３月29日に豊田市は市内に立地する、愛知工業大学、中京大学、日本赤十字豊田看護大学、愛知学泉大学、愛知県立芸術大学、豊田工業高等専門学校の６校と包括的連携協定を締結した。豊田市および６大学等は協定に基づき「協議会」を設置､「市と大学との連携によるまちづくり」プロジェクトに取り組むことになった。

本センターは豊田消防本部と共同企画書を作成し次の事業に取り組んだ（詳細は2.3章参照）

（１）豊田交通安全安心フェスタへの出展

（２）豊田市防災危険物安全協会防災講演会

（３）夏休み特別企画！みんなで体験「ドローン」

（４）歩いて作ろう！わが町の防災マップ講座

（５）セミナー「熊本地震について」

（６）モーニング防災ゼミ

（７）豊田高校生消防クラブ設立への支援

3. 本学学生消防団の設立準備

消防団員定員不足が問題になっており、これを解決するために消防庁は大学生を機能的消防団員として採用する制度を発表した。さらに、消防庁は学生が消防団員として活躍した場合には学生消防団活動認証証明書を発行する一方、自治体・企業は証明書を就職活動に積極的に活用する事を求めた。従来消防団加入の条件は自治体の条例に基づき、地域に在宅または地域の企業に在勤するものに限定されていたが、豊田市は平成28年３月に市内の大学に在学する学生も加入できるように条例を改正した。条例改正には本センターも積極的に参画した。

本学にも学内消防団を結成するよう消防本部より要請があり、大学本部が対応した。次年度以降、消防団設立に向けた具体的取り組みが開始される。本センターは大学本部と連携して推進する予定である。

10. センター見学会

本センター見学会では、地震防災・減災を中心とした講義や緊急地震速報のデモンストレーションなどを行っております。

平成28年度は、自治会など地域ボランティアの方々が10組251名、企業１組17名、高校生・PTA５組８組380名、他大学１組15名、海外の大学から２組23名、合計19組686名と　たくさんの方々にお越しいただきました。

写真１　海外の大学の方の見学の様子

写真２　ボランティアの方たちの見学の様子

11.　内海山海津波避難訓練

正木和明

1.　内海海水浴場における津波避難訓練

内海海水浴場における観光客（海水浴客）を対象にした津波避難訓練が毎年海の日に実施されており、これまで地域防災研究センターはGPSを利用した避難参加者の避難経路、避難速度等の分析及び参加者へのアンケート調査等を実施、訓練主催者に報告してきた。

平成28年度は、正木客員教授が開会式で挨拶した他、小池准教授がGPS測定とアンケート調査を実施した。今回初めて岡崎市常磐東小学校の生徒・父兄20名程度に参加いただいた。常磐東小学校は、防災マップづくり、地域住民との共同取り組み等防災教育に熱心に取り組んでいる小学校であり、本センターも活動を強く支援している。常磐東小学校は山間部にあり津波の心配はないが、旅行などで海岸を訪れる機会がある事から、今回、津波訓練に参加いただだいた。

日時：平成28年７月18日（海の日）

会場：内海海岸海水浴場

参加者：海水浴客、観光協会事業者、ボランティア、警察、消防、愛工大他、約510人

写真１　避難訓練本部

写真２　主催者の誘導で避難する観光客

2.　内海山海防災連絡協議会による津波避難訓練

内海海水浴場の避難訓練は、海水浴客を浜辺で開店している業者（ボート屋等）が旗を振りながら避難場所に誘導する訓練であるが、連絡協議会による防災訓練は、地域住民自身が避難する訓練である。その詳細については、２.３章に報告されている

日時：平成28年11月26日㈯　８時～14時

場所：山海ふれあい会館

参加者：約1,100人

各種実績一覧

■講演会等リスト

横田崇

- 南知多防災講演会,「熊本地震を教訓とした地域防災力の向上」，南知多町役場，2016年10月28日
- 静岡防災講演会,「南海トラフで発生する地震とその被害」，静岡県防災センター，2016年11月6日
- 緊急地震速報講演会,「南海トラフの地震を迎え撃つために」，高知県立県民文化ホール，2016年12月6日
- 愛知工業大学秋季オープンカレッジ,「熊本地震を解剖する（3)」，愛知工業大学八草キャンパス，2016年12月17日
- 千種フォーサイト・パートナーシップ,「災害に強いまちづくりにむけて」，千種警察署，2017年1月20日

正木和明

- 愛知工業大学オープンカレッジ地域防災研究センター講座,「私の出会った魅力的な地震学シリーズ，第1回 自然を理解する手段～物理学」，愛知工業大学本山キャンパス，2016年5月14日
- 愛知工業大学オープンカレッジ地域防災研究センター講座,「私の出会った魅力的な地震学シリーズ，第2回 地球を理解する手段～地球科学」，愛知工業大学本山キャンパス，2016年5月28日
- 愛知工業大学オープンカレッジ地域防災研究センター講座,「私の出会った魅力的な地震学シリーズ，第3回 世界の地形を理解する手段～プレートテクトニクス」，愛知工業大学本山キャンパス，2016年6月18日
- 豊田市上郷生涯学習センター高齢者講座上郷三期大学,「高齢者のための防災について」，豊田市上郷交流館，2016年9月28日
- 豊田市防火危険物安全協会防災講演,「企業の防災対策事例」，豊田市消防本部会議室，2016年10月12日
- 豊田市消防本部子供講座,「ドローンを体験しよう」，豊田消防本部敷地内，2016年11月13日
- 愛知工業大学オープンカレッジ地域防災研究センター講座,「熊本地震～二つの地震が連動した不思議な地震～」，愛知工業大学八草キャンパス，2016年11月19日
- 豊田市消防市民講座,「町歩きマップの作成」，豊田市消防本部，2016年11月19日
- 豊田市消防本部モーニングゼミ，第1回「東北地震と熊本地震とは」，豊田市消防本部会議室，2016年11月12日
- 豊田市消防本部モーニングゼミ，第2回「南海トラフの地震シナリオ～愛知県は？」，豊田市消防本部会議室，2016年11月26日
- 豊田市消防本部モーニングゼミ，第3回「まれに起こる巨大災害に備えられるか」，豊田市消防本部会議室，2016年12月10日
- 豊田市消防本部セミナー,「熊本地震のメカニズム、震動特性、被害」，豊田市消防本部会議室，2016年12月17日
- 足助地区コミュニティ会議安全安心部会事業防災講演会,「頻発する自然災害にどう備えるか～足助の地形地質と減災対策～」，足助コミュニティセンター，2017年1月28日
- 豊田市災害ボランティアコーディネーター連絡協議会見学会,「頻発する自然災害にどう備えるか」，2017年3月4日

入倉孝次郎

- 日本地震工学会第4回総会基調講演,「2016年熊本地震に学ぶ強震動予測の到達点と今後の課題」，建築会館ホール，東京，2016年5月17日

・5th IASPEI/IAEE International Symposium: Effects of Surface Geology on Seismic Motion, Keynote "Methodology of simulating ground motions from mega-thrust earthquakes using multi-scale heterogeneous-source model", Taipei, Taiwan, 15-17 August, 2016
・Sinotech Workshop："Scaling relationships of source parameters of inland crustal-earthquakes in Japan – Examination of ground motion estimation of the 2016 Kumamoto earthquake –", Taipei, Taiwan, 18 August, 2016

辻本哲郎

・あいぼう講演会，「中部の水災害とその対応 - 治水から克災まで」，愛知工業大学本山キャンパス，2016年4月18日
・第1回総合土砂管理講習会，「流砂系一貫の総合土砂管理とは」，名古屋桑山ビル，2016年8月25日
・応用生態工学会20周年記念東京大会公開シンポジウム，「工学分野から見た応用生態工学の20年間」，東京大学弥生講堂，2016年9月4日
・H28年度日本技術士会中部本部秋季例会，「巨大水災害克服に向けて」，名古屋工業大学，2016年9月10日
・長良川9.12豪雨災害から40年防災シンポジウム,「水災害への備えのあり方 - 河川整備や広域連携とその限界 - 」，安八町中央公民館，2016年9月12日
・第22回河川情報取扱技術研修,「河川計画・維持管理・水防災の一連化に向けた河川情報の的確な適用」,東京・河川情報センター，2016年10月17日
・建設コンサルタンツ協会環境専門部会，「今後の河川環境技術者の役割と展望」，TKPガーデン名古屋PREMIUM，2016年10月20日
・岐阜県自治連絡協議会研修大会記念講演，「豊かな木曽三川流域圏を目指して」，海津市文化センター，2016年11月17日
・建設コンサルタンツ協会RCCM更新研修，「治水計画から河川維持管理・水防災対応の技術」，名古屋ガーデンパレスホテル，2016年12月5日

建部謙治

・みえ企業等防災ネットワーク全体会，企業の防止力向上のために，三重県総合文化センター，2017年3月14日
・せとティーチャーズアカデミー，学校における火災安全と訓練，瀬戸市文化会館，2016年8月24日

中村栄治

・名古屋駅地上及び地下街を題材にしたこれからの施設管理，KIMOTOプライベートセミナー，東京，2016年7月

小池則満

・豊田警察署研修会，「緊急地震速報で南海トラフ地震に備える」，豊田警察署，2016年8月30日
・愛知県教育委員会防災教育指導者研修会，「学校防災の理論と実際」，2016年10月18日および2016年10月28日
・模擬講義，「土地区画整理をしてみよう」，愛知県立南陽高等学校，2017年1月25日
・学校防災シンポジウム2017，「大洪水に対する小学校の備えとは」，愛知工業大学，2017年2月18日

奥川雅之

・国際ビジネス交流協会第17回例会講演，「研究紹介：知能機械システム工学研究室」，中日パレス，2016年9月26日

赤堀良介

・あいぼう会セミナー，「河川管理に関わる近年の話題について」，愛知工業大学本山キャンパス，2016年5月16日
・消防職員を対象とした河川災害に関する講義，「河川災害と矢作川に関わる近年の話題について」，豊田市消防本部，2016年7月26日

岩見麻子

・気候変動適応技術の情報共有ワークショップ，「適応自治体フォーラムでのシーズとニーズのマッピング」，防災科学技術研究所，2017年3月15日

廣内大助

・JR東日本労組第1回防災士研修，「災害から命を守る鉄道防災ハザードマップづくり」，パストラル長岡，2016年4月14日
・長野市教育委員会研修講座，「東日本大震災から考える学校現場での取り組み」，長野市教育センター，2016年6月24日
・信州大学出前講座（柳原地区住民自治協議会主催），「2014年長野県神城断層地震と長野県の活断層」，長野市柳原公民館，2016年6月25日
・信州大学出前講座（芹田地区住民自治協議会主催），「芹田地区における都市型水害を理解するためには」，長野市芹田支所，2016年6月29日
・信州大学出前講座（伊那市まほいらな市民大学講座），「水害はどこで起こるのか―地図からわかる低地の水害予測―」，伊那市生涯学習センター，2016年6月30日
・信州大学出前講座（安茂里地区住民自治協議会主催），「活断層大地震に備える」，長野市安茂里公民館，2016年7月14日
・長野県防災教育講演会，「東日本大震災から考える学校防災の取り組み」，長野県塩尻研修所，2016年7月19日
・信州大学出前講座，「災害図上訓練DIGを体験しよう」，塩尻市吉田公民館，2016年7月23日
・松川村職員研修講演会，「長野県の活断層地震にどう備えるかー松川村での実践ー」，松川村役場，2016年8月3日
・信州大学出前講座（長野県市町村自治振興組合主催），「水害はどこで起こるのか―地図からわかる低地の水害予測―」，長野県自治会館，2016年9月29日
・愛知県農業土木測量設計研究会講習会，「愛知県の活断層地震を知り備える」，愛知県土地改良会館，2016年10月21日
・信州大学出前講座（大町市八坂公民館高齢者学級講座），「活断層大地震に備える」，大町市八坂支所，2016年11月18日
・信州大学出前講座（上小小中学校事務研究協議会研修），「水害はどこで起こるのか―地図からわかる低地の水害予測―」，上田合同庁舎，2016年12月2日
・信州大学出前講座（松本商工会議所運輸・エネルギー部会主催），「活断層大地震に備える」，松本商工会館，2017年2月6日
・信州大学出前講座（松本市中山公民館・中山地区防災講座），「活断層大地震に備える」，松本市中山公民館，2017年2月11日
・JR東日本労組30周年シンポジウム講演，「東日本大震災から学ぶ鉄道の防災・減災への取組み」，ホテルラングウッド，2017年3月1日

森田匡俊

・学校防災シンポジウム2017－大洪水に対する小学校の備えとは－，「学校防災活動におけるGPS利用」，愛知工業大学，2017年2月18日

服部亜由未

・名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター平成28年度公開講座「馬場家文書と馬場家が語る文化と歴史―遺産の魅力―」，「明治初期の旧婚旅行―馬場家12代当主夫妻の旅をたどって―」，重要文化財馬場家住宅，2016年9月10日

安江健一

・「自然災害と防災・減災の科学」，愛知教育大学講義，愛知教育大学教育学部，2016年7月4日，12月26日
・加子母むらづくり協議会，「マウンテンバイクで行く阿寺断層ツアー」，岐阜県中津川市加子母，2016年11月20日
・日本原子力研究開発機構東濃地科学センター サイエンスカフェ，「東濃地方の活断層」，土岐市産業文化振興センターセラトプア土岐，2017年1月14日

■TV出演・新聞記事リスト

横田崇

●テレビ
・「熊本地震」，news every，2016年4月15日（16：00～17：00）
・「熊本地震」，バンキシャ，2016年4月24日（18：00～19：00）

正木和明

●新聞
・「大川小災害の教訓～子供の直観力が命を救う～」，中部経済新聞，2016年12月7日
●テレビ
・豊田ひまわりTV，とよた交通安全安心フェスタコメンテーター，スカイホール豊田，2016年5月15日

建部謙治

●新聞
・中小企業の企業防災診断手法，診断システム無料で提供，中部経済新聞社，2016年7月14日

小池則満

●テレビ
・「海上の釣り客の避難訓練」，NHKおはよう東海，2016年8月29日

奥川雅之

●新聞
・「シンギュラリティと世界経済」，中部経済新聞，2017年3月8日

●テレビ

・ドデスカ！（メーテレ），2016年11月23日（祝）06：00～08：00

石黒聡士

●新聞

・「防災、復興 ドローンの力/愛工大研究員が活断層調査」，中日新聞，2016年5月20日

廣内大助

●新聞

・「熊本地震　堤直下に活断層横ずれ2メートル」，朝日新聞，2016年5月19日

・「全国地震動予測地図　県内7市確率高まる」，信濃毎日新聞，2016年6月11日

・「善光寺地震の活断層探る―飯山高グラウンド予定地を掘削」，信濃毎日新聞，2016年8月5日

・「タブレット使い防災地図作り・加茂小学校」，信濃毎日新聞，2016年9月15日

・「以前活動の断層発見　信大などのグループ調査へ」，信濃毎日新聞，2016年9月16日

・「断層と巨大地震の関連は　大学グループが白馬でトレンチ調査」，大糸タイムス，2016年9月16日

・「神城断層に大地震の痕跡　調査地点を一般公開」，読売新聞，2016年9月17日

・「長野・加茂小で防災教育　校区危険マップ　iPadで作ろう」，朝日新聞，2016年9月24日

・「長野県北部地震から2年　未確認断層活動か」，中日新聞，2016年11月20日

・「長野市新消防署　断層調査せず」，信濃毎日新聞，2017年1月6日

・「白馬周辺の活断層図改訂」，信濃毎日新聞，2017年3月29日

●テレビ

・「どう備える“活断層”地震～東海北陸のリスク～」，NHKナビゲーションスペシャル，2016年9月2日（19：30～20：43）

・「加茂小学校防災フィールドワーク」，abnステーション，2016年9月14日

・「白馬トレンチ調査」，abnステーション，2016年9月16日

森田匡俊

・「洪水時の児童の避難考えるシンポ」，東海3県のニュース，2017年2月18日（18：45～18：53）

・「河川決壊へ備える」，ほっとイブニング，2017年2月22日（18：10～19：00）

■各種委員

横田崇

・文部科学省地震調査研究推進本部政策委員会委員

・気象庁東海地震強化地域判定会委員

・気象庁緊急地震速報改善委員会委員

・気象庁緊急地震速報技術部会委員

・愛知県地震対策有識者懇談会委員

・静岡県地震防災センターリニューアル検討委員会委員

・豊田市防災会議委員

・豊田市国民保護協議会委員
・瀬戸市防災会議委員
・大府市防災会議アドバイザー
・災害情報学会副会長
・災害情報学会総務委員長
・災害情報学会理事

正木和明

・公益財団岐阜県産業経済振興センター南海トラフ巨大地震亜炭鉱跡防災モデル事業基金事業亜炭鉱跡問題対策委員会委員長
・一般社団法人充填協会理事長
・内海山海防災連絡協議会顧問

入倉孝次郎

・日本学術会議連携会員
・文部科学省地震調査推進本部専門委員
・内閣府南海トラフ巨大地震モデル検討会委員
・内閣府日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震モデル検討会委員
・内閣府相模トラフ沿いの巨大地震等による長周期地震動検討会委員
・文科省長周期地震動ハザードマップ作成等支援事業技術審査専門員
・IAEA（国際原子力機関）EBP-WA1議長
・IAEA（国際原子力機関）IASA ISSC科学委員会委員
・社団法人日本地震学会IASPEI委員会委員

辻本哲郎

・社会資本整備審議会委員
・交通政策審議会臨時委員
・中央環境審議会専門委員
・自然再生専門家会議委員
・河川生態学術研究会委員
・水源地生態研究会委員
・河川砂防技術基準検討会委員
・河川技術評価委員会委員
・国土技術研究センター堤防委員会委員
・水源地環境センター応用生態研究助成審査委員会委員
・中部地方ダム等管理フォローアップ委員会委員
・北陸地方ダム等管理フォローアップ委員会委員長
・東海ネーデルランド高潮洪水地域協議会総括ファシリテーター
・南海トラフ地震津波対策中部圏戦略会議構成員
・中部地方整備局新技術活用評価会議委員

・中部地方整備局加瀬二次管理に関する有識者会議委員
・矢作川流域圏懇談会座長
・矢作川水系総合土砂管理検討委員会委員長
・小渋ダム土砂バイパストンネルモニタリング委員会委員長
・大河津分水路環境調査検討委員会委員委員長
・十勝川千代田実験水路等実験アドバイザー委員会委員長
・木津川下流河川保全利用委員会委員
・愛知県河川整備計画流域委員会副委員長
・あいち生物多様性戦略2020推進委員会委員

建部謙治

・豊田市都市計画審議会委員
・日本インテリア学会東海副支部長

中村栄治

・大規模環境の3次元計測と認識・モデル化技術専門委員会委員（精密工学会）

小池則満

・東海ネーデルランド高潮・洪水地域協議会　作業部会ファシリテーター
・大学コンソーシアムせと協議委員
・人と自然の共生国際フォーラム実行委員会　作業部会委員

奥川雅之

・日本機械学会機械力学計測制御部門運営委員会委員
・レスキューロボットコンテスト実行委員会副実行委員長
・レスキューロボットコンテストシーズ実行委員会副実行委員長
・一般社団法人アール・アンド・アールコミュニティー理事
・日本機械学会機械力学・計測制御部門「スマート構造システムの将来技術と実用化に関する研究会（A-TS10-40)」幹事
・日本機械学会機械力学・計測制御部門「診断とメンテナンス技術研究会（A-TS10-39)」委員
・計測自動制御学会「システムインテグレーション部門講演会」プログラム委員
・「ロボティクスシンポジア」プログラム委員
・TPIPユーザーコミュニティ主査
・RoboCup Rescue Robot League Technical Committee Member
・World Robot Summitインフラ・災害対応分野検討委員会委員

赤堀良介

・長久手市香流川整備計画推進委員会　委員
・中部地方整備局水文観測高度化検討会　委員
・豊田市天然アユ生態調査実行委員会　アドバイザー

・国土交通省中部地方整備局庄内川河川事務所　庄内川リバーカウンセラー会議　リバーカウンセラー
・公益社団法人土木学会　調査研究部門　水工学委員会環境水理部会　オブザーバー

岩見麻子

・とよた防災フェスタ実行委員
・あいちシェイクアウト訓練実行委員
・日本計画行政学会・社会情報学会共催 第11回若手研究交流会実行委員

石黒聡士

・あいちシェイクアウト実行委員
・とよた防災フェスタ実行委員

廣内大助

・国土交通省国土地理院 活断層情報整備検討委員会委員
・国土交通省国土地理院 治水地形判定委員会委員
・日本地理学会災害対応委員会地域拠点委員
・日本第四紀学会古地震ネオテクトニクス研究委員会委員
・日本活断層学会理事
・地球惑星科学連合教育問題検討委員会委員
・NPO法人レスキューストックヤード有識者パートナー
・独立行政法人 産業技術総合研究所活断層・地震研究センター外来研究員
・名古屋市市政資料館調査協力員
・新修豊田市史執筆協力員（自然部会）
・長野県地理学会幹事（～2016年7月）
・長野県地理学会副会長
・長野市防災基金運営委員会委員長
・長野県教育委員会学校防災アドバイザー
・松川村防災アドバイザー

服部亜由未

・豊田市史執筆協力委員（近代）
・「伝統文化等体験型情報発信事業」ファシリテーター
・歴史地理学会庶務委員

■外部資金獲得状況

横田崇

・横田崇・関谷直也，「水害リスク情報の避難行動への影響家庭のモデル化」，297万円，河川情報センター平成28年研究助成金，2016年11月～2016年10月

入倉孝次郎

・川辺秀憲・入倉孝次郎,「動力学的震源モデル及び海底地形を考慮した海溝型地震の強震動予測と建物被害想定」1,000,000円, 平成28年度科学研究費助成事業（科学研究費補助金), 平成28年度

建部謙治

・建部謙治,「医療福祉施設における震災時の初動体制に関する基礎的研究」, 160万円, 科学研究費補助金, 研究期間2016年4月～2019年3月

小池則満

・小池則満・森田匡俊,「小学校における河川はん濫に対する高台避難のためのタイムライン整備に向けた実践研究」997,000円, 河川財団河川基金, 2016年4月～2017年3月
・小池則満・森田匡俊・服部亜由未・石黒聡士,「観光地における防災訓練を中核とした地域防災計画策定手法の開発」1,400,000円, 科学研究費補助金, 2016年4月～2019年3月

赤堀良介

・赤堀良介・原田守啓・川村里実・石黒聡士・片桐浩司,「流況平滑化河川での植生進出と微地形変遷に対する水理学的検討」750,000円, 文部科学省科学研究費補助金基盤研究（C), 2016年～2018年
・木村一郎・安田浩保・内田賢悦・渡部靖憲・清水康行・赤堀良介,「洪水リスク時空間的相関性と治水安全度階層性を考慮した流域一体河川計画手法の構築」450,000円, 文部科学省科学研究費補助金基盤研究（B), 2013年～2016年
・赤堀良介,「小規模出水期間における河道内微地形の変遷に対する物理的機構に基づく検討」500,000円, 日東学術振興財団平成27年度研究助成, 2015年～2017年

岩見麻子

・岩見麻子・木村道徳,「大規模パブリックコメントの意見構造把握と可視化のためのテキストマイニング分析手法の開発」, 730,000円, 公益財団法人 日本生命財団 環境問題研究助成, 2015年10月～2016年9月
・岩見麻子,「複数の流域委員会における議論内容の比較に関する研究」, 350,000円, 公益財団法人 クリタ水・環境科学振興財団 国内研究助成, 2015年10月～2016年9月
・熊澤輝一・木村道徳・鎌谷かおる・岩見麻子,「オントロジーを用いた環境共生への地域ストーリーの共同構築手法の開発」, 2,700,000円, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金基盤研究（C), 2015年10月～2016年9月
・小池則満・服部亜由未・岩見麻子・森田匡俊・石黒聡士,「観光地における防災訓練を中核とした地域防災計画策定手法の開発」, 3,200,000円, 日本学術振興会 科学研究費助成事業 学術研究助成基金助成金基盤研究（C), 2016年4月～2016年9月

廣内大助

・廣内大助,「一まわり小さな地震を考慮した活断層の地震発生予測モデルの構築」, 7,150千円（2016年度), 文部科学省　科学研究費補助金基盤研究（B), 2016年4月～2019年3月
・田中敏・廣内大助,「地域防災のICT活用アクティブラーニングパッケージの開発と教員養成における展開」,

8,320千円（2016年度），文部科学省　科学研究費補助金基盤研究（B），2016年4月～2019年3月
・安江建一・廣内大助，「肉眼観察で確認困難な断層変位基準の定量的把握手法の構築」，910千円（2016年度），文部科学省　科学研究費補助金基盤研究（C），2014年4月～2017年3月
・廣内大助，「段丘面の長波長変形に着目した第四紀後期のひずみ速度の解明」，1,300千円（2016年度），文部科学省　科学研究費補助金新学術領域研究（研究領域提案型），2015年4月～2017年3月
・石山達也・廣内大助，「海底活断層の活動性解明のための離水岩石海岸地形の露出年代測定」，1,040千円，文部科学省　科学研究費補助金挑戦的萌芽研究，2015年4月～2018年3月

森田匡俊

・岡本耕平・森田匡俊，「外国人散居地域の形成に関する空間分析と孤立度指標の開発」，350,000円，日本学術振興会　科学研究費助成事業学術研究助成基金助成金「挑戦的萌芽研究」，2015年4月～2018年3月
・小池則満・森田匡俊，「観光地における防災訓練を中核とした地域防災計画策定手法の開発」，200,000円，平成28年度科学研究費助成事業 基盤研究（C），2016年4月～2019年3月

服部亜由未

・池口明子・田和正孝・吉田国光・前田洋介・服部亜由未・横山貴史，「沿岸漁場における順応的環境ガバナンスの地理学的研究」，585万円，平成28年度基盤研究（B），2016年4月～2020年3月
・小池則満・森田匡俊・服部亜由未・岩見麻子・石黒聡士，「観光地における防災訓練を中核とした地域防災計画策定手法の開発」，182万円，平成28年度基盤研究（C），2016年4月～2019年3月

安江健一

・安江健一・廣内大助，「肉眼観察で確認困難な断層変位基準の定量的把握手法の構築」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（C），2014年4月～2017年3月
・廣内大助・松多信尚・石山達也・杉戸信彦・竹下欣宏・安江健一「一回り小さな地震を考慮した活断層の地震発生予測モデルの構築」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究（B），2016年4月～2019年3月

業績リスト

■論文（審査付）

正木和明

・Kazuaki Masaki, Shozo Tagashira, Xin Wang, Hao Wu and Kojiro Irikura: Evaluation of Shear Wave Velocity in Buildings for Seismic Capacity Assessment using Microtremor Measurement, 5th IASPEI/IAEE International Symposium: Effects of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, August 15-17（2016.8）

・Hao Wu, Kazuaki Masaki and Kojiro Irikura: An Alternative Method to Identify Underground Velocity Structures from Microtremor H/V Spectral Ratio, 5th IASPEI/IAEE International Symposium: Effects of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, August 15-17（2016.8）

・Xing Wang, Shozo Tagashira, Kazuaki Masaki and Kojiro Irikura: A method of Detective Degradiation Parts of Buildings using Vertical Measurement Array: Application to Super High-Rise Buildings, 5th IASPEI/IAEE International Symposium: Effects of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, August 15-17（2016.8）

・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura and Susumu Kurahashi: Empirical Fragility Curves of Buildings in Northern Miyagi Prefecture during the 2011 off the Pacific Coast of Tohoku Earthquake, Jornal of Disaster Research, Vol.11, No.6, 1253-1270（2016）

・X, Wang, K. Masaki, K. Irikura: Building Damage Evaluation based on Changes of Story Shear-Wave Velocities Extracted from a 1D Vertical Ambient Noise Observation System, 16th World Conference on Earthquake Engineering, Paper No. 749, Santiago Chile, Ja. 9th-13th（2017）

入倉孝次郎

・Kojiro Irikura, Ken Miyakoshi, Katsuhiro Kamae, Kunikazu Yoshida, Kazuhiro Somei, Susumu Kurahashi and Hiroe Miyake: Applicability of source scaling relations for crustal earthquakes to estimation of the ground motions of the 2016 Kumamoto earthquake, Earth, Planets and Space（2017）69:10,

・DOI: 10.1186/s40623-016-0586-y

辻本哲郎

・尾花まき子・日髙諒・戸田祐嗣・辻本哲郎：河川砂州の水質浄化機能としての最大脱窒能の定量化の試み，土木学会論文集G（環境），土木学会，Vol.72，No.6，II_9-14（2016.10）

・尾花まき子・全浩成・辻本哲郎：流路側岸の植生帯による砂・POM捕捉に関する水理実験と平面二次元解析の工夫，土木学会論文集B1（水工学），土木学会（2017.3）

・Ho Seong Jeon, Makiko Obana, Kyu Ho Kim and Tetsuro Tsujimoto :Flow and Sediment Transport with Non-Submerged Riparian Vegetation in 1D Scheme, Journal of Coastal Research, Special Issue No.,(2017)（印刷中）

小池則満

・小池則満・森田匡俊・服部亜由未：道路距離と直線距離の関連性を用いた施設配置計画策定の可能性～愛知県豊田市の場外離着陸場を事例として～，GIS-理論と応用（研究・技術ノート），Vol.24，No.1，pp.49-55（2016.6）

・小池則満・中嶋浩人：宿泊施設の特性を考慮した津波防災対策に関する分析～愛知県南知多町を事例として～，土木学会論文集D3（土木計画学），Vol.72，No.5，II_487-494，（2016.12）

山本義幸

・福島大地・山本義幸・小島淳一・中村栄治・都竹正志：点群による地質地盤情報の可視化，応用測量論文集，27，pp.87-98（2016.7）

岩見麻子

・岩見麻子：住民の防災意識の把握と可視化 ―愛知県名古屋市南区星崎地区を事例として―，土木学会論文集G（環境），Vol.72，No.6，pp.Ⅱ_325-Ⅱ_331（2016.10）
・岩見麻子・木村道徳・松井孝典・馬場健司：気候変動適応策に関するオンライン熟議におけるトピック間の関係性の可視化，環境情報科学学術研究論文集，No.30，pp.311-316（2016.12）

石黒聡士

・石黒聡士・熊原康博・後藤秀昭・中田 高・松多信尚・杉戸信彦・廣内大助・渡辺満久・澤 祥・鈴木康弘：UAVによる空撮とSfM-MVS解析による地表地震断層の地形モデル作成とその精度－2014年11月長野県北部の地震を例に－，日本リモートセンシング学会誌，36（2），pp.107-116（2016.4）
・Ishiguro, S., Yamano, H. and Oguma, H.：Evaluation of DSMs generated from multi-temporal aerial photographs using emerging structure from motion - multi-view stereo technology, Geomorphology, 268, pp.64-71（2016.5）

呉　浩

・Xin Wang, Susumu Kurahashi, Hao Wu, Hongjun Si, Qiang Ma, Ji Dang, Dongwang Tao, Jiwei Feng, Kojiro Irikura: Building damage concentrated in Longtoushan town during the 2014 Ms. 6.5 Ludian earthquake, Yunnan, China: examination of cause and implications based ground motion and vulnerability analyses. Journal of Seismology, doi. 10.1007/s10950-017-9659-z

廣内大助

・石黒聡士・熊原康博・後藤秀昭・中田高・松多信尚・杉戸信彦・廣内大助・渡辺満久・澤祥・鈴木康弘：UAVによる空撮とSfM-MVS解析による地表地震断層の地形モデル作成とその精度－2014年11月長野県北部の地震を例に－，日本リモートセンシング学会誌，36，pp.107-116，2016.4

森田匡俊

・小池則満・森田匡俊・服部亜由未：道路距離と直線距離の関係性を用いた施設配置計画策定の可能性-愛知県豊田市の場外離着陸場を事例として-，GIS-理論と応用，24（1），49-55（2016.6）

服部亜由未

・小池則満・森田匡俊・服部亜由未：道路距離と直線距離の関連性を用いた施設配置計画策定の可能性―愛知県豊田市の場外離着陸場を事例として―，GIS－理論と応用，24（1），pp.49-55（2016.6）

安江健一

・谷川晋一・三箇智二・安江健一：河川の土砂運搬作用を考慮した河床縦断面形シミュレーション，地形，第37巻，pp.189-207（2016.4）
・末岡茂・梅田浩司・安江健一・丹羽正和・島田耕史・石丸恒存・檀原徹・岩野英樹・八木公史：複数の熱年代学的手法に基づいた江若花崗岩敦賀岩体の冷却・削剥史，地学雑誌，第125巻，pp.201-219（2016.4）
・Niwa, M., Shimada, K., Tamura, H., Shibata, K., Sueoka, S., Yasue, K., Ishimaru, T. and Umeda, K. : Thermal constraints on clay growth in fault gouge and their relationship with fault zone evolution and hydrothermal alteration: Case study of gouges in the Kojaku Granite, Central Japan, Clays and Clay Minerals, vol.64, pp.86-107（2016.4）

三浦洋靖

・Kyosuke Terada, Hiroyasu Miura, Masayuki Okugawa, Yoshimitsu Kobayashi：Adaptive Speed Control of Wheel Mobile Robot on Uncertain Road Condition, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.28 No.5,pp.687-694（2016.10）

■論文（審査なし、研究報告・紀要集），その他（報告書など）

辻本哲郎

・辻本哲郎・戸田祐嗣・尾花まき子（2017.1）：伊勢湾流域圏の再生－自然共生型流域圏管理の視点から，日本都市計画学会機関紙「都市計画」，Vol.66，No.1，pp.34-37（2017.1）

中村栄治

・中村栄治・山本義幸・成澤守・大森高樹：地下街の3次元レーザ計測と点群データの利活用について，地下空間シンポジウム論文・報告集，pp. 53-58，第22巻（2017.1）

山本義幸

・中村栄治・山本義幸・成澤守・大森高樹：地下街の3次元レーザ計測と点群データの利用について，地下空間シンポジウム論文・報告集，第22巻，pp.53-58（2017.1）

奥川雅之

・T. Kinugasa, R. Iwado, N. Miyamoto, M. Kurisu, M. Okugawa, T. Haji, K. Yoshida, H. Amano, R. Hayashi, Shelled Structure for Flexible Mono-tread Mobile Track, International Journal of Applied Electromagnetics and Mechanics, Vol.52, No.3-4, pp.891-896, 2016.
・K. Terada, H. Miura, M. Okugawa and Y. Kobayashi, Adaptive Speed Control of Wheel Mobile Robot on Uncertain Road Condition, Journal of Robotics and Mechatronics, Vol.28, No.5, pp.687-694, 2016.

石黒聡士

・石黒聡士・松多信尚・井上　公・中田　高・田中　圭・石山達也・箕田友和・竹竝大士・森木ひかる・廣内大助：UAVを用いた平成28年熊本地震の地表地震断層の撮影と地形モデル作成，日本リモートセンシング学会

誌，36（3），pp.214-217（2016.7）

廣内大助

・石黒聡士・松多信尚・井上公・中田高・田中圭・石山達也・蓑田友和・竹竝大士・森木ひかる・廣内大助：UAVを用いた平成28年熊本地震の地表地震断層の撮影と地形モデル作成（速報），日本リモートセンシング学会誌，36，pp.214-217，2016.7
・松多信尚・佐藤善輝・坂本絵梨・廣内大助・堀和明・川上賢太・米原和哉：海岸平野の発達過程に基づく南海トラフ巨大地震時の地殻変動のパターンの解明，国土地理協会第15回学術研究助成報告書，2016

服部亜由未

・服部亜由未・出口幸希・中村しほみ：『長野県町村誌』の地図化，名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター報告2016，pp.145-152（2017.3）
・石川寛・服部亜由未：解題：馬場家文書（その1），名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター報告2016，pp.165-166（2017.3）
・石川寛・服部亜由未：資料2：馬場家文書（その1），名古屋大学重要文化財馬場家住宅研究センター報告2016，pp.183-225（2017.3）

■学会発表・プロシーディングス（プロシーディングスがある場合）

辻本哲郎

・尾花まき子・全浩成・辻本哲郎：流路側岸植生帯による砂・粒状有機物の捕捉と横断方向平面二次元解析へのその取り込み，応用生態工学会第20回研究発表会講演集，p.140，東京（2016.9）
・尾花まき子・鶴田遼・戸田祐嗣・辻本哲郎：側岸植生を有する複断面流路での側岸侵食と河床低下の伝播に関する水理実験，土木学会第71回年次学術講演会，pp.161-162，岡山（2016.9）
・Makiko Obana, Ryo Hidaka, Yuji Toda, Tetsuro Tsujimoto : Quantification of maximum denitrification potential as water purification function of sandbar in a river, Proc. of Ecology and Civil Engineering（Japan-South Korea Joint Seminar）, pp.27-28, Busan, Korea（2016.9）

建部謙治

・鄂芳尊・建部謙治：「子どもの心象風景に関する研究、瀬戸市の児童の意識の移り変わり　その2」，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.1027-1028（2016年8月）
・建部謙治・田村和夫・高橋郁夫：「防災カルテによる企業防災診断とその推移」，日本建築学会大会学術講演梗概集，pp.973-974（2016.8）

小池則満

・小池則満・森田匡俊・服部亜由未・岩見麻子・倉橋奨：海上津波避難マップ作成を通じた漁船の津波避難方法に関する実践研究，第54回土木計画学研究発表会・講演集，pp.2455-2460（2016.11）
・岩見麻子・小池則満：防災教育プログラムの実践と評価 ―愛知県岡崎市立常磐東小学校を事例として―，第54回土木計画学研究発表会・講演集，pp.375-378（2016.11）
・戸崎将寛・小池則満・阿部亮吾：従業員への防災教育を目的とする防災力検定システムの開発と検証，第54回

土木計画学研究発表会・講演集，pp.2367-2370（2016.11）
・服部亜由未・森田匡俊・小池則満・宮川竜一・石黒聡士：「海から目線」の防災―海上釣り客の津波避難行動のGPS分析―，2017年度日本地理学会春季学術大会，p.269（2017.3）

奥川雅之

・T. Kinugasa, K. Matsuoka, N. Miyamoto, R. Iwado, K. Yoshida, T. Nara, M. Okugawa, M. Kurisu, Validation of Avalanche Beacons Implemented in a Robot for Urban Search and Rescue, Mechatronics（2016.6）
・N. Hu and M. Okugawa, Influence of Initial Parameter Vector for Natural Frequency Identification of Smart Washer Applying Adaptive Observer, Proceedings the 27th International Conference on Adaptive Structures and Technologies（2016.10）
・H. Miura, A. Watanabe, S. Suzuki and M. Okugawa, Field Experiment Report for Tunnel Disaster by Investigation System with Multiple Robots, Proceedings of the 14th IEEE International Workshop on Safety, Security and Rescue Robotics, Paper No.92（2016.11）
・木村哲也・大金一二・奥川雅之，鈴木壮一郎・清水優・大坪義一・高橋友一・田所論：Japan Virtual Robotics Challengeタスク開発の概要，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集，2A1-16b1（2016.6）
・三浦洋靖・奥川雅之・倉橋奨・鈴木壮一郎・半澤雄一・高倉広義・受動適応クローラロボット調査システムによるトンネル災害現場検証実験報告：日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集，2A1-16b2（2016.6）
・小寺俊介・渡邊彩夏・鈴木壮一郎・奥川雅之：障害接触時に対するサブクローラ回転角のコンプライアンス制御，日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集・2A1-16b6（2016.6）
・竹村秀太・鈴木壮一郎・奥川雅之・JVRCにおける障害走破タスク難易度の考察：日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集，2A1-17a4（2016.6）
・柴田憲・鈴木壮一郎・奥川雅之・JVRC競技における調査点検タスク達成度分析：日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集，2A1-17b3（2016.6）
・西田真也・奥川雅之：クアッドロータ推進車輪型移動ロボットにおけるピッチ角と並進移動速度制御日本機械学会ロボティクス・メカトロニクス講演会講演論文集，2P1-07a2（2016.6）
・渡邊彩夏・小寺俊介・鈴木壮一郎・奥川雅之：クローラロボットのサブクローラのダイナミクスに対するコンプライアンスの考察，日本機械学会機械力学計測制御部門講演会，PpaerNo.432（2016.8）
・三浦洋靖・奥川雅之：速度ベクトルと先導ロボット情報を利用した移動ロボットの隊列走行制御，日本機械学会機械力学計測制御部門講演会，PaperNo.429（2016.8）
・胡乃杰・奥川雅之：適応オブザーバによるスマートワッシャの固有振動数同定問題におけるパラメータ初期値の影響，日本機械学会機械力学計測制御部門講演会，PpaerNo.544（2016.8）
・三浦洋靖・奥川雅之・倉橋奨・鈴木壮一郎・半澤雄一：高倉広義，受動適応クローラロボット調査システムによる第2回トンネル災害現場検証実験報告，第34回日本ロボット学会学術講演会（RSJ2016）講演概要集，1Y3-07（2016.9）
・竹村秀太・渡邊彩夏・奥川雅之：不整地走破に関するロボットシミュレータの評価検証，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.629-632（2016.12）
・西田真也，奥川雅之：クアッドロータ推進車輪型移動ロボットにおける走行制御に関する検証実験，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.360-365（2016.12）

・渡邊彩夏・奥川雅之：サブクローラを有するクローラロボットのサブクローラ回転角ダイナミクスに対するモデリング，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.643-648（2016.12）
・三浦洋靖・奥川雅之：仮想インピーダンスを考慮したケーブル敷設群ロボットのプラトーン走行制御，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.690-695（2016.12）
・佐野佑吏・奥川雅之・鈴木優太・尾藤大樹・村瀬三寿希・若山明弘・外山拓哉：第16回レスキューロボットコンテスト競技結果をもとにした長湫ボーダーズのロボット技術に関する考察，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.715-719（2016.12）
・寺本大晟・奥川雅之・渡邊彩夏・東拓野：Rapidly Manufactured Robot League参加を想定とした小型受動クローラロボットの走破性評価，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.1706-1709（2016.12）
・鈴木壮一郎・奥川雅之・三浦洋靖・渡邊彩夏・竹村秀太・寺本大晟：ロボカップ世界大会2016競技結果をもとにした受動適応クローラロボットScottの性能評価，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.1710-1715（2016.12）
・奥川雅之・渡邊彩夏：レスキューを題材とするロボットコンテストの新しい取り組みと目指すもの，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.1722-1727（2016.12）
・花見堂大輔・伍賀正典・寺本大晟・奥川雅之・田原剛二郎：Robocupジュニアレスキューブリッジリーグにおける日本チームの取り組み，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.1734-1737（2016.12）
・橘内大輔・三浦貴彦・高倉広義・三浦洋靖・奥川雅之・栗栖正充：TPIP遠隔操作システムにおけるROSの活用，計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会論文集（SI2016），pp.1699-1660（2016.12）

赤堀良介

・赤堀良介・寺田真司・阿部孝章：段波により遡上した流木の樋門周辺における挙動の検討，第19回応用力学シンポジウム講演概要集，pp.173-174，2016
・赤堀良介・野田翔平・堀金広富貴：庄内川の河道内植生域における出水期前後での細粒土砂堆積の傾向について，土木学会第71回年次学術講演会概要集，pp.163-164，2016
・赤堀良介・石黒聡士・青島正和・中田詞也：SfM-MVSによる河道微地形モデルの構築とその流れの解析への応用，平成28年度土木学会中部支部研究発表会概要集，pp.125-126，2017

岩見麻子

・岩見麻子・木村道徳・松井孝典・熊澤輝一：機械学習を用いた大規模パブリックコメントの意見分布の把握に関する検討，2016年度人工知能学会全国大会予稿集，2K5-OS-25b-2（2016.6）
・岩見麻子・木村道徳・松井孝典・馬場健司：テキストマイニングによるオンライン熟議内容の把握の試み，環境科学会2016年会講演要旨集，pp.123-124（2016.9）
・岩見麻子：流域委員会が果たした役割に関する基礎的研究，日本計画行政学会第39回全国大会「縮減社会の持続可能性」研究報告要旨集，pp.241-244（2016.9）
・岩見麻子・小池則満：防災教育プログラムの継続的実践と評価 ―愛知県岡崎市立常磐東小学校を事例として―，第54回土木計画学研究発表会・講演集，pp.375-378（2016.11）
・小池則満・森田匡俊・服部亜由未・岩見麻子・倉橋奨：海上津波避難マップ作成を通じた漁船の津波避難方法に関する実践研究，第54回土木計画学研究発表会・講演集，pp.2455-2460（2016.11）

・熊澤輝一・鎌谷かおる・木村道徳・岩見麻子・小野聡・上須道徳：山村地域の将来ストーリーデザインに向けた古写真ワークショップ，EcoDePS2016 Proceedings，pp.22-25（2016.12）

石黒聡士

・熊原康博・後藤秀昭・中田　高・石黒聡士・石村大輔・石山達也・岡田真介・楮原京子・柏原真太郎・金田平太郎・杉戸信彦・鈴木康弘・竹竝大士・田中　圭・田中知季・堤　浩之・遠田晋次・廣内大助・松多信尚・箕田友和・森木ひかる・吉田春香・渡辺満久：2016年熊本地震に伴う地表地震断層の分布とその特徴，日本地球惑星科学連合2016年大会予稿集，MIS34-05（2016.5）
・後藤秀昭・熊原康博・中田　高・石黒聡士・石村大輔・石山達也・岡田真介・楮原京子・柏原真太郎・金田平太郎・杉戸信彦・鈴木康弘・竹竝大士・田中　圭・田中知季・堤　浩之・遠田晋次・廣内大助・松多信尚・森木ひかる・吉田春香・渡辺満久：2016年熊本地震の地表地震断層，日本地球惑星科学連合2016年大会予稿集，MIS34-P44（2016.5）

呉　浩

・Hao Wu, Kazuaki Masaki, Kojiro Irikura: An alternative method to identify underground velocity structures from microtremor H/V spectral ratio. 5th IASPEI/IAEE International Symposium: Effects of Surface Geology on Seismic Motion, Taipei, 2016.8

服部亜由未

・服部亜由未・森田匡俊・小池則満・宮川竜一・石黒聡士：「海から目線」の防災―海上釣り客の津波避難行動のGPS分析―，2017年日本地理学会春季学術大会発表要旨集No.91，p.269（2017.3）

■学会発表・プロシーディングス（プロシーディングスがない場合）

横田崇

・横田崇・根本信・後藤真希枝・高田幸司・池田雅也：活断層型地震のスケーリング式の再検討，日本地球惑星科学連合2016年大会，SSS38-08，幕張メッセ（2016年5月）
・横田崇・池田雅也・高田幸司・甲斐田康弘：我が国の地震対策におけるK-NETデータの活用，日本地球惑星科学連合2016年大会，招待講演，幕張メッセ（2016年5月）
・横田崇・根本信・後藤真希枝・高田幸司・池田雅也：活断層型地震のスケーリング式の検討，日本地震学会2016年秋季大会，名古屋国際会議場（2016年10月）

入倉孝次郎

・入倉孝次郎：日本地球惑星科学連合大会,「沈み込み巨大衝上地震の強震動予測の考え方」,幕張千葉（2016.5.24）
・入倉孝次郎：日本地震学会2016年度秋季大会，「日本国内の内陸地殻内地震の震源パラメータのスケーリング則の検証 -2016年熊本地震（Mj7.3）への適用-」，名古屋国際会議場（2016.10.5）

呉　浩

・呉浩・倉橋奨・正木和明・倉孝次郎：熊本地方における強震観測点の地盤特性と地盤構造の同定，日本地球惑星科学連合大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）

廣内大助

・吾妻崇・白濱吉起・谷口薫・廣内大助・吉岡敏和・郡谷順英・小俣雅志：十日町断層帯の活動履歴とセグメント区分，地球惑星科学連合（幕張メッセ）（2016.5）
・谷口薫・吾妻崇・白濱吉起・廣内大助・郡谷順英・小俣雅志：十日町断層帯東部におけるトレンチ調査およびボーリング調査（大田島地点），地球惑星科学連合（幕張メッセ）（2016.5）
・松多信尚・杉戸信彦・廣内大助・池田一貴・澤祥・渡辺満久・鈴木康弘：神城断層(糸魚川静岡構造線活断層)の活動履歴－白馬村蕨平における変動地形学的調査，地球惑星科学連合（幕張メッセ）（2016.5）
・熊原康博・後藤秀昭・中田高・石黒聡士・石村大輔・石山達也・岡田真介・楮原京子・柏原真太郎・金田平太郎・杉戸信彦・鈴木康弘・竹竝大士・田中圭・田中知季・堤浩之・遠田晋次・廣内大助・松多信尚・森本ひかる・吉田春香・渡辺満久, 2016年熊本地震の地表地震断層の分布とその特徴, 地球惑星科学連合（幕張メッセ）（2016.5）
・熊原康博・大学合同調査グループ（廣内大助ほか）：2016年熊本地震に伴う地表地震断層の特徴，日本活断層学会（法政大学）2016.10
・熊原康博・後藤秀昭・廣内大助【招待講演】：地表地震断層と地殻変動　-2014年長野県北部の地震と2016年熊本地震を事例に，日本活断層学会シンポジウム（法政大学）（2016.10）
・藤井善章・野池徹哉・小松賢吾・廣内大助・村松浩幸・島田英昭・田中敏，タブレット端末によるGISを用いた防災学習支援用ソフトウェアの開発，JAET佐賀大会（佐賀市文化会館）（2016.10）
・Hideaki Goto, Yasuhiro Kumahara, Hiroyuki Tsutsumi, Shinji Toda, Daisuke Ishimura, Shinsuke Okada, Takashi Nakata, Kyoko Kagohara, Heitaro Kaneda, Yasuhiro Suzuki, Mitsuhisa Watanabe, Shunto Tsumura, Nobuhisa Matsuta, Tatsuya Ishiyama, Nobuhiko Sugito, Daisuke Hirouchi, Satoshi Ishiguro, Haruka Yoshida, Kei Tanaka, Daiki Takenami, Shintaro Kashihara, Tomoki Tanaka, Hikaru Moriki, Distribution of surface rupture associated the 2016 Kumamoto earthquake and its significance（Invited）, AGU 2016, Fall Meeting, San Francisco USA, 2016.12
・廣内大助・松多信尚・安江健一・竹下欣宏・道家涼介・佐藤善輝・石村大輔・石山達也・杉戸信彦・塩野敏昭・谷口薫・澤 祥・渡辺満久・鈴木康弘・神城断層調査グループ：糸魚川―静岡構造線活断層帯神城断層北部における断層活動，日本地理学会季学術大会（筑波大学）（2017.3）

森田匡俊

・OKAMOTO, K., MORITA, M. and SHIMIZU, S.：Finding regions where non-Japanese live dispersed in Japan, The 33rd International Geographical Congress, China National Convention Center, Beijing（2016.8）

安江健一

・安江健一・笹尾英嗣・尾上博則・岩月輝希・加藤智子・竹内竜史・國分（齋藤）陽子・浅森浩一・梅田浩司：地質環境長期安定性評価確証技術開発, 日本地球惑星科学連合2016年大会, 千葉幕張メッセ国際会議場(2016.5)
・尾上博則・小松哲也・安江健一・岩月輝希・竹内竜史・加藤智子・笹尾英嗣・梅田浩司：地質環境長期安定性評価確証技術開発（1）地質環境長期変動モデル（東濃地域）, 日本地球惑星科学連合2016年大会, 千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）
・松岡稔幸・小松哲也・安江健一・尾上博則・大山卓也・岩月輝希・笹尾英嗣・梅田浩司：地質環境長期安定性評価確証技術開発（2）地質環境長期変動モデル（幌延地域）, 日本地球惑星科学連合2016年大会, 千葉幕張メッ

セ国際会議場（2016.5）
・徳安佳代子・安江健一・小松哲也・田村糸子・堀内泰治：地質環境長期安定性評価確証技術開発（3）後背地解析技術，日本地球惑星科学連合2016年大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）
・竹内竜史・尾上博則・安江健一：地質環境長期安定性評価確証技術開発（5）地下水涵養量推定技術，日本地球惑星科学連合2016年大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）
・徳安佳代子・田村糸子・小松哲也・安江健一：河成段丘堆積物のOSL年代 測定と指標テフラ分析，日本地球惑星科学連合2016年大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）
・石丸恒存・島田耕史・末岡茂・安江健一・丹羽正和・梅田浩司：花崗岩中の破砕帯の活動性評価-高速増殖原型炉もんじゅ敷地内破砕帯調査を例として-，日本地球惑星科学連合2016年大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）
・島田耕史・石丸恒存・末岡茂・照沢秀司・安江健一・丹羽正和・梅田浩司：高速増殖原型炉もんじゅ付近の花崗岩に見られる並走粘土脈を含む小規模破砕帯の活動性評価例，日本地球惑星科学連合2016年大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）
・香取拓馬・小林健太・丹羽正和・清水麻由子・小松哲也・安江健一・堀内泰治：Study of fault evolution based on texture and chemical analyses of fault gouge: Case study of the Byobuyama fault, Gifu prefecture, central Japan，日本地球惑星科学連合2016年大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）
・山田隆二・國分（齋藤）陽子・若月強・安江健一：化学的前処理法の違いによる放射性炭素年代測定に対する影響評価，日本地球惑星科学連合2016年大会，千葉幕張メッセ国際会議場（2016.5）
・Sueoka, S., Shimada, K., Ishimaru, T., Niwa, M., Yasue, K., Uemda, K., Danhara, T., Iwano, H. : 185 Fission-track dating of faults with plastically deformed biotites, 26th Goldschmidt Conference（Goldschmidt 2016）（2016.6）
・安江健一・徳安佳代子・小松哲也・堀内泰治・清水麻由子・丹羽正和：電子スピン共鳴法を用いた後背地解析技術の研究，日本地質学会第123年学術大会，日本大学（2016.9）
・清水麻由子・佐野直美・安江健一・柴田健二・丹羽正和・鈴木和博：EPMAを用いた東海層群土岐砂礫層の重鉱物の存在比・化学組成と後背地の解明，日本地質学会第123年学術大会，日本大学（2016.9）
・小村慶太朗・金田平太郎・柏原真太郎・小嶋智・西尾智博・安江健一：重力変形地形と活断層との関係；根尾谷断層北端部における研究例，平成28年度日本応用地質学会研究発表会，日立システムホール仙台（2016.10）
・植木忠正・清水麻由子・丹羽正和・安江健一：記載岩石学的手法に基づく後背地解析の研究事例，平成28年度日本応用地質学会中部支部技術交流会，名古屋大学（2016.10）
・廣内大助・松多信尚・安江健一・竹下欣宏・道家涼介・佐藤善輝・石村大輔・石山達也・杉戸信彦・塩野敏昭・谷口薫・澤祥・渡辺満久・鈴木康弘・神城断層調査グループ：糸魚川―静岡構造線活断層帯神城断層北部における断層活動，日本地理学会2017年春季学術大会，筑波大学（2017.3）

三浦洋靖

・奥川雅之・三浦洋靖・鈴木壮一郎・半澤雄一・倉橋 奨・高倉広義：受動適応クローラロボット調査システムによるトンネル災害現場検証実験報告，ロボティクス・メカトロニクス講演会2016，2A1-16b2，パシフィコ横浜（2016.6）
・三浦洋靖・奥川雅之：速度ベクトルと先導ロボット情報を利用した移動ロボットの隊列走行制御，Dynamics and Design Conference 2016，429，山口大学（2016.8）
・三浦洋靖・奥川雅之・倉橋 奨・鈴木壮一郎・半澤雄一・高倉広義：受動適応クローラロボット調査システム

による第2回トンネル災害現場検証実験報告，大34回 日本ロボット学会学術講演会，1Y3-07（2016.9）
・Hiroyasu Miura, Ayaka Watanabe, Soichiro Suzuki, Masayuki Okugawa：Field Experiment Report for Tunnel Disaster by Investigation System with Multiple Robots, International Symposium on Safety, Security and Rescue Robotics-2016, WeA3T.4, EPFL, Lausanne, Switzerland（2016.10）
・三浦洋靖・奥川雅之：仮想インピーダンスを考慮したケーブル敷設群ロボットのプラトーン走行制御，第17回計測自動制御学会 システムインテグレーション部門講演会，1H3-3，札幌コンベンションセンター（2016.12）

■著書

建部謙治

・日本インテリア学会，直井英雄他著，動線計画・視線計画，インテリアの百科事典，丸善出版，pp.180-181, 330-333（2016.5）

奥川雅之

・奥川雅之・衣笠哲也・三浦貴彦：DIYレスキューロボットのすすめ-遠隔操作型調査ロボットの技術を作りながら学ぶ-第2回通信技術と遠隔操作デバイスTPIP（開発環境の構築），ロボコンマガジン，No.105，pp.90-93（2016.5）
・奥川雅之・三浦貴彦・衣笠哲也：DIYレスキューロボットのすすめ-遠隔操作型調査ロボットの技術を作りながら学ぶ-第3回操縦（操作）インターフェース，ロボコンマガジン，No.106，pp.92-95（2016.7）
・衣笠哲也・奥川雅之・三浦貴彦：DIYレスキューロボットのすすめ-遠隔操作型調査ロボットの技術を作りながら学ぶ-第4回モータの駆動方法と角度制御，ロボコンマガジン，No.107，pp.94-97（2016.9）
・衣笠哲也・奥川雅之・三浦貴彦：DIYレスキューロボットのすすめ-遠隔操作型調査ロボットの技術を作りながら学ぶ-第5回センシング（センサー情報の取得），ロボコンマガジン，No.108，pp.92-95（2016.11）
・衣笠哲也・奥川雅之・三浦貴彦：DIYレスキューロボットのすすめ-遠隔操作型調査ロボットの技術を作りながら学ぶ-第6回SLAM（事故位置推定とマッピング）ロボコンマガジン，No.109，pp.92-95（2017.1）

服部亜由未

・服部亜由未：巡見街道と八神街道が交わる稲沢市，溝口常俊編『古地図で楽しむ尾張』，風媒社，pp.76-78（2017.1）